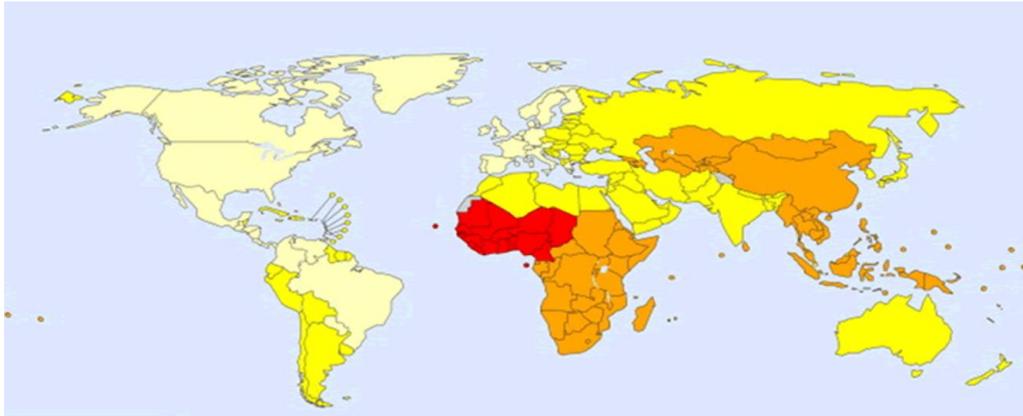


# B型肝炎ワクチンについて

- B型肝炎ワクチン（HBワクチン）は、4～6ヶ月間に3回の接種することで、B型肝炎と将来の肝がんを予防できるとされています。接種は通常皮下注射で行われます。接種量 0.25mL から 0.5mL です。



- HBワクチンの接種は世界 180 か国以上で行われており、安全なワクチンです。



- 乳幼児期に3回の接種を行った場合、ほぼすべての人がB型肝炎に対する免疫（HBs抗体）を獲得することができます。獲得した免疫は少なくとも15年間持続することが確認されています。20歳代までに接種を行った場合も高い効果が期待できます。



- B 型肝炎ワクチンは年齢とともに免疫が付きにくくなります。国内ワクチンでは 30 歳以上に 3 回接種しても免疫が付くのは 80%程度で、5 人に一人は免疫が付きません。一方、輸入ワクチンの Twinrix は成分が 2 倍量の 20  $\mu$ g 入っており、3 回接種で 90%以上に免疫が付きまます。



● B型肝炎の感染には十分な注意が必要です。

傷口を介して



入れ墨



ピアスの穴開け



針治療など



母子感染



性交感染



歯ブラシの共有など